

後援会事業実施報告書

佐々木 啓



歴史・文化遺産コース（歴史・考古学メジャー）では、毎年コース（メジャー）のメンバーで、地域の史跡など文化遺産を視察する一日バスハイクを行っている。このバスハイクは、学生相互の親睦を深めることはもちろん、地元の文化財保全に対する学生の自覚や責任感の向上に資する、重要な機会となっている。

本年度は、6月3日（日）に茨城県つくば市周辺の史跡・文化遺産の視察を行った。当日参加したのは歴史・考古学メジャー教員7名と、院生8名、4年生3名、3年生24名、2年生33名、合計75名であった。学生は、それぞれの文化財や史跡について事前に解説文を作成し、つくば周辺の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、準備を通して学生間の交流を深めた。

当日は、午前8時20分に大学生協前に集合し、点呼をとった後、2台のバス（大型・中型）に分乗して、つくば方面に向かった。10時前につくば市に入ってから、小田城跡を見学する班と平沢官衙遺跡を見学する班とに分かれて、それぞれの見学を行った。前者については高橋教員、後者については田中教員が解説を行い、また、つくば市教育委員会の職員

の方の説明を受けることができた。

11時過ぎに再びバスに乘車して筑波山神社門前へ向い、11時30分に到着。周辺の食堂で各自昼食をとった。昼食後、筑波山神社周辺を見学してからケーブルカーに乘車して山頂へ向い、男体宮や気象観測所を見学した。その後はロープウェイで下山する班と、徒歩で下山する班とに分かれ、女体宮などを見学して、15時30分頃全員下山した。



その後16時過ぎにバスに乘車し、17時過ぎに大学に帰着。まとめの会合を開いた後、解散となった。

当日は晴天に恵まれ、充実した史跡見学を行うことができた。バスの借り上げについてご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げます。